



生活支援コーディネーター

砂塚 一美

SUNADUKA KAZUMI

1952年 上越市出身  
1974年 保健師として柏崎市に勤務  
2016年～「地域活動サポートセンター柏崎」に  
所属、現職に携わる

「生活支援コーディネーター」は「地域支え合い推進員」とも呼ばれており、私たちが住み慣れた柏崎で、歳を重ねても生きがいをもち、安心して暮らし続けられるよう「お互いさま(支え合い)の地域の仕組みづくり」をサポートする。

柏崎市では「特定非営利活動法人地域活動サポートセンター柏崎」がこの事業を担い、7名が市内7カ所の包括支援センターと協働しながら、それぞれの地域を担当している。

この事業の発足当初から、生活支援コーディネーターとして活躍する砂塚一美さんは、保健師として市民の健康づくりや寝たきりの人への介護相談等に長く携わる一方、元気館の創設やコミュニティデイホーム(現在のくらしのサポートセンター)、介護保険制度の立ち上げなどにも深く関わってきたという。

かつての老人福祉法から2000年に介護保険法が施行され、大きく変化したのは高齢者を支える仕組み。公費から、社会全体で支え合う互助の仕組みへと変わったことで、国は「高齢者は常に心身の健康を保持し、その知識と経験を活用

して社会的活動に参加するよう努める」ことを基本理念として示している。

今や人生100年の時代となった。加齢や病気で心身に不具合が生じると「自分はダメな人間になった」と張り合いを無くし、閉じこもりがちになることが心配される。しかし、地域で気軽なお茶のみや、将棋・料理等の趣味が楽しめると集まる居場所ができる。隣近所が声を掛け合い、見守り、お互いに支え合う仕組みができたとしたら将来は安心できる。その仕組みを実際に作り機能させるには町内会やコミセンなどが重要。そして地域の人たちのニーズをまとめ、その地域に馴染む仕組みを共に考え、実現に向けて関係各所を繋ぐなど、市と包括支援センターと共にサポートを行うのが生活支援コーディネーターの役割。信頼関係が大きな鍵になる。市内には、町内会やコミセンなどが時間をかけて協議を重ね、助け合いの仕組みが始まったところも既にいくつかある。

柏崎は他市にはないたくさん「集まり場」があり、そこに参加して「健康(けんこう)長寿」のための工夫点を聞いたり保健師の視点からミニアドバイスを交えたり、楽しく関わりながら地域の人が小声で呟いた困りごとに耳を傾けることで地域が見えてくると砂塚さん。助け合いを仕組みにしていけるのは難しい仕事だが関わっていくことで一人ひとりが繋がり、それぞれが自分ごととして考えてくれるようになると続ける。

「取り組んで良かったと思うことが大切。地域の人たちが元気に生きがいをもち生活できるように、これからもお手伝いしていきたい」と笑顔を向けた。

#### お問い合わせ

◆くらしのサポートセンターえきまえ

柏崎市駅前2-1-67

☎0257-41-6583

開所時間:月～金(祝日除く) 9時30分～15時30分

特定非営利活動法人

◆地域活動サポートセンター柏崎

柏崎市東本町1-16-12 2F

☎0257-47-7299

<https://www.tsckashiwazaki.com>

